



# わかみどり

URL <http://minami.city.kitamoto.lg.jp>

北本市立南小学校

みんな なかよく みどりの学校  
かしこく 元気な 南っ子

Tel 048-591-4709

Fax 048-591-5802



## 「先を見通す」ということ

校長 安田 一也

厳しい残暑の中で始まった2学期も今月下旬には折り返しを迎えます。日が暮れるのがはやくなり、どこからともなく聞こえてくる鈴虫やコオロギの鳴き声が、秋の訪れを教えてくれています。

さて、本校では「南小 トライアングル ミッション」と銘打ち、次の重点を掲げています。①身に付ける（学力・体力）②心を耕す（規律ある態度・徳育）③先を考える（円滑な関係づくり・



見通し) の3点から学校教育が果たすべき使命を重点化しています。その中から、今月は「先を考える」を話題にしたいと思います。

日本の武道や芸道の中で使われる言葉の一つに「残心」（ざんしん）があります。剣道では、相手に打ち込み、見事、面や胴を打ったとしても、それで「勝負あり」とはなりません。

ほっとした瞬間、相手から反撃される可能性があったり、こちらも連続して技を仕掛けたりできる機会があるからです。そのため、打っただけ、当たっただけでは一本とみなされず、審判の合議の上で取り消されることもあるようです。

一連の動作を終えた後でも緊張を持続させ、心身の備えを怠らないという心構えや気構えが必要とされています。

このことは、学校生活や日常生活の所作にも通じます。とかく「もう、終わったから」と安心してしまい、後のことを考えずに行動しがちです。たとえば、下駄箱で上履きに履き替えたあとの外履きの置き方、図書室の本の戻し方、入退室時のドアの閉め方、給食後の食器の返し方など、ふだん何気なく当たり前に行っている動作や行動の一つ一つに気を配る必要があります。また、テストやプリントの見直しや間違い直しも同様です。

そのためには、「なぜ、そうするのか？」と問いかけ、目的意識をもたせることが肝要であると考えます。自分自身も含めて、次に使う人が使いやすいように気を配る、皆で使うものだから大切に扱う、テストでは間違っただけの原因を探り再び過ちを繰り返さないようにするなどの「先を見通させるよさ」に気づかせたいものです。その気づきがやがて「終わってしまえば、それでおしまい」ということではなく、「常にその先に何かがあるか」、「その次は何をすればよいか」などに思いを巡らせ、気を緩めることなく責任をもって行動する習慣を身に付けるきっかけにつながると考えるからです。

2学期がスタートしてからひと月。気温も落ち着き、学校生活が順調に進行している今だからこそ、全校で意識させる必要があると感じています。地域や家庭においても、「やりっぱなし」を戒め、先を見通した行動を賞賛していただけると助かります。